第6章 今後の対応策 —各機関への要望—

依然として全国から子どもの預け入れが続いている現状からは、単に「こうのとりのゆりかご」が抱える課題だけでなく、子どもの養護に関するさまざまな問題も見えてくる。これらの課題に対する取り組みとして、以下のとおり各機関への要望をまとめた。

1 慈恵病院に対する要望

- ・ ゆりかごの運営と一体となっている相談業務についてさらに充実していただきたい。
- ・ 病院は、預け入れ者と積極的な接触は行わないと公言しているが、当専門部会の要望を真摯に受け止め、匿名にしたいという預け入れ者の気持ちに寄り添いつつも積極的な接触に努め、可能な限り相談に繋ぎ、子どもの権利を守るため身元判明に繋がるあらゆる努力を行っていただきたい。
- ・ 母子の安全確保のため、自宅出産等（孤立出産）の危険性や出産直後の長距離での移動の危険性の周知にさらに努めていただきたい。
- ・ ゆりかごの扉の外に子どもを置く事例のような、危険な預け入れが起こらないように防止策を図っていただきたい。
- ・ 預け入れ者または相談者の悩み、事情を聞き取り、当人はもとより、同様の悩みを抱える者に対する行政への支援へ活かせるようにしてほしい。
- ・ ゆりかごの運用に当たり、引き続き、熊本市とも十分に連携を取られたい。
- ・ 慈恵病院が受けた相談者への対応について、相談者の居住地の行政の窓口や医療機関と連携を取り、フィードバックを行い相談者への支援へ繋げてほしい。

2 熊本市に対する要望

- ・ 身元不明の子どもの出自を知る権利を保障するため、身元判明のために引き続き調査を徹底していただきたい。
- ・ 慈恵病院に対し、引き続き、許可時の留意事項を遵守するとともに、子どもの身元判明に繋がるよう預け入れ者との接触に最大限の努力を払うよう要請をしていただきたい。
- ・ 他の児童相談所に移管された子どもを含め、預けられた子どもの現在の状況の把握に十分努められたい。
- ・ 里親委託をさらに推進するとともに、子どもの養育を担っている里親についても、子どもの成長とともにさまざまな課題が出てくることから、そのような里親の支援を十分に行っていただきたい。
- ・ ゆりかごへの預け入れを考えている親や虐待のグレーゾーンの状況にある親への支援の仕組みを確立していただきたい。
- ・ 育児困難な世帯への支援（金銭的援助のみではなく、相談窓口やその他のサポートを含む）について特に検討していただきたい。
- ・ 第4章で述べた諸課題やゆりかごをとりまく状況について、国や全国の行政・関係機関等に対して周知していただきたい。
- ・ 特に、「こうのとりのゆりかご」自体の評価を行うことや、予期せぬ妊娠で悩む人々が相

話しやすい24時間365日対応の相談窓口の整備について、国に対し継続的に要望していただきたい。

- ・特別養子縁組成立後の親子への支援に関する施策について検討していただきたい。

3 国に対する要望

- ・支援を要する母子の把握や遺棄された子どもの身元判明に繋げるため、各医療機関で出生した子どもの出生届が完了しているかどうか、該当市町村へ確認できるような全国的なシステムの導入について検討いただきたい。
- ・事前に公的相談窓口等への相談があれば、預け入れを回避できた事例も多くあることから、妊娠・出産や子育てに関する相談窓口や支援制度についてさらなる周知・広報に努めていただきたい。
- ・障がいのある子どもの預け入れがあることを踏まえ、障がいのある子どもの子育てに対する援助の拡充を図っていただきたい。
- ・ゆりかごへの預け入れが続いている現状に鑑みて、わが国でも内密出産制度を早急に検討していただきたい。
- ・子どもの出自を知る権利の保障についての法整備を検討していただきたい。
- ・国外からの預け入れには国際問題を伴い、一自治体では解決できない課題や問題を抱えることになると予想されることから、国外事例への対応において更なる協力をいただきたい。

4 全国の行政・関係機関に対する要望

- ・ゆりかごへの預け入れ前に公的機関が関わっている事例が見られることから、機関相互の連携を図り、相談にあたって十分な受け入れ体制をもって臨んでいただきたい。
- ・相談窓口や支援の各種行政サービスについての情報を知らないがゆえに、ゆりかごへの預け入れに至った事例があると思われるので、周知・広報に努めていただきたい。
- ・ゆりかごへ預け入れた子どもの調査にあたっては、関係する児童相談所においても積極的に協力いただきたい。
- ・子どもの養育にあたり、ゆりかごに預けられた経緯を十分に踏まえ、保護者の精神的ケアも含め、子どもの最善の利益を考えて対応していただきたい。
- ・ゆりかごへの預け入れを考えている親や虐待のグレーゾーンにある親への支援の仕組みを確立していただきたい。
- ・育児困難な世帯への支援（金銭的援助のみではなく、相談窓口やその他のサポートを含む）について特に検討していただきたい。
- ・産科及び関係医療機関においては、妊娠中における障がいのある子どもや治療を要する子どもについて、保護者への告知を注意深く行うとともに、出産後の養育に関してもその情報を行政機関へ連絡する等、連携強化に努めていただきたい。
- ・行政機関・関係機関においては、要支援児童等について、ゆりかごへの預け入れや遺棄の可能性を念頭に置き、状況の把握や、安全な妊娠・出産に向けた支援を行っていただきたい。